

かみしんでん 上新田だるま

志太郡大井川町上新田の岩本浅次さん一家で作られていただるまです。古くは、地元の雛人形の販売を家業としていました。浅次さ



んが静岡市の塩沢だるま店でだるまの製法を習い、大正十二年に開業しました。木型は自作の物を彫り、「上新田だるま」として独自の姿、形を作り出しました。特徴は口が大きく、袴は金粉で山形に丁寧に顔から離して描かれています。

かつては、岩本さん親子夫婦の四人でかなりの量をつくりました。だるまの天日干しが、藤相鉄道上新田駅周辺の秋の風物詩の一つとなったものです。当時は、豊川稲荷や清水観音のだるま市には必ず出荷されました。

昭和四十年頃からだるまの張子製造工程が機械化されたことにより、出来上がった張子を購入し、それに彩色する作業となったため、張子を乾燥させる天日干しの風景も見られなくなりました。その後、昭和五十一年に創設者の浅次さんが亡くなり、娘・よしさんに受け継がれてきましたが、残念ながら昭和五十八年からだるまは製作されていません。